

ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業 実践報告

DXを活用した看護学教育の実際

福岡女学院看護大学看護学部



内 容

1. 事業の活動の背景
2. 実施施設の特徴と運用の概要
3. DXを活用した教育の実践例
4. ミッションタウンとシミュレーションの実際
5. OSCE活用のねらいと効果
6. 今後の課題と展望

ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業 活動の背景

＜これまでの取り組み＞

- 領域横断的なシミュレーション教育導入
- 4年間を通して学ぶ患者が生活するWeb仮想都市ミッションタウンの開発



＜課題（身につけたい力）＞

- 臨床現場や対象者の生活のイメージする力
- 電子カルテの膨大な患者情報から意図的な情報収集する力
- 複雑な疾病構造から症状を呈する患者の状態をアセスメントする力



＜本事業で実施した教育内容＞

- 「DXによる循環型看護教育」：ミッションタウンの領域横断的な活用とシミュレーション教育の連動
- ミッションタウン活用したシミュレーション・OSCEの実施

実施施設の特徴と運用の概要

本事業によりミッションタウンの機能拡充とシミュレーション教育センターに外来部門・診察室でのシミュレーション教育が実施できる体制の整備し、循環型教育を実践した

シミュレーション教育センター



OSCEセンター

OSCE: Objective Structured Clinical Examination
客観的臨床能力試験

シミュレーション教育



ミッションタウン



OSCE

DXを活用した循環型教育の実践



OSCEセンター

コントロール室



管理モニタ・録画システム

指示用マイク



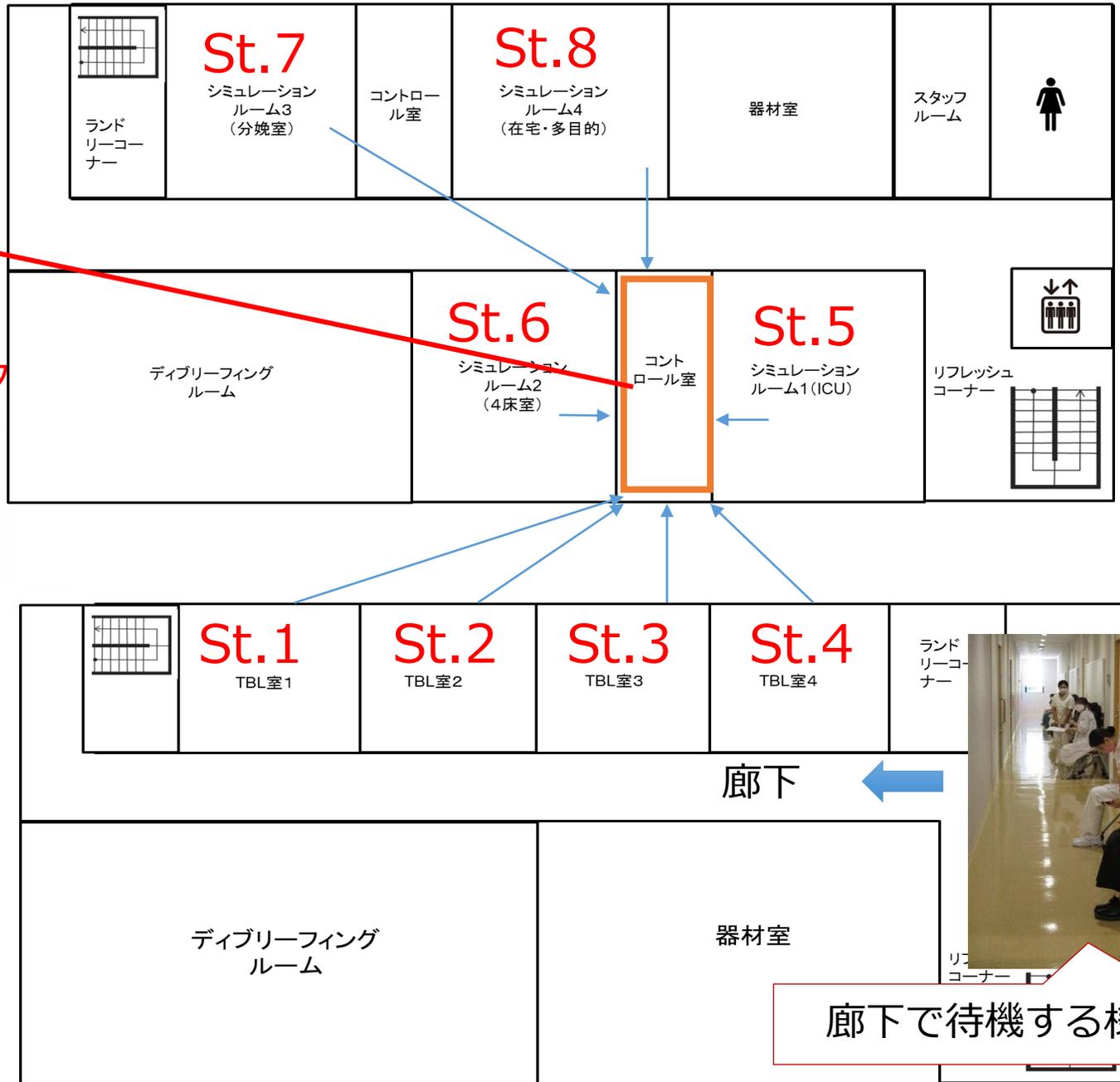
Spider Rec

ネットワークカメラ

集音マイク



8つのステーション (St)



廊下で待機する様子

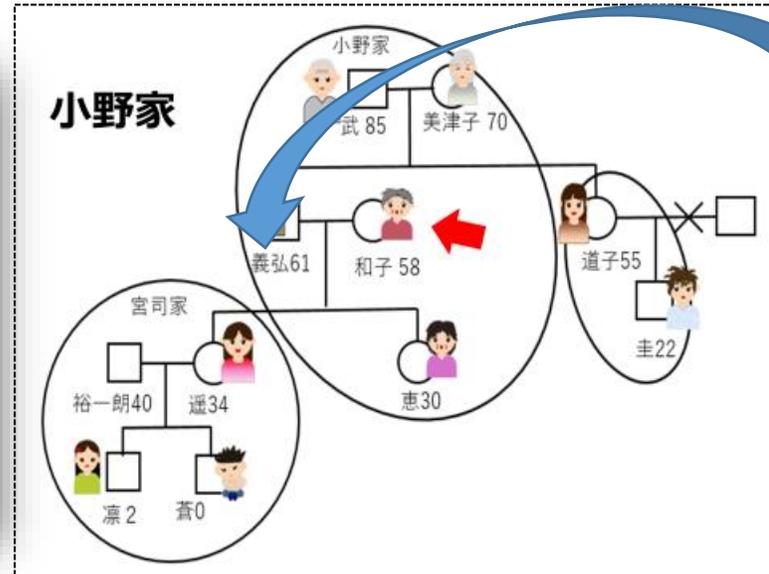
DXによる循環型看護教育の実践

ミッションタウンとは：学年を超え領域横断的に活用できる健康レベルの異なる複数の事例をWeb上の町に共存させたデジタル教材

＜ミッションタウンの特徴＞

1. 領域を超えた教員間のつながりの強化
2. 教育内容の精選
3. 学生の知識・イメージをつなぐ学習効果

Web上のご自宅をクリックして患者情報を確認



ミッションタウンとシミュレーションを活用した教育の実践例

科目名：コミュニケーションリテラシー

対象：看護大学2年生前期 100名 基礎看護学実習 I 前～後

目的：対人関係の成立に必要なコミュニケーションの基本的技法の習得

方法：全員が患者対応場面を実施（4分間）

事例：糖尿病初回入院



場面：

午前10時、個室に入院。病衣に着替え、ベッドに休んだところである。教員と実習指導者と学生の3人による「実習担当依頼と同意」についての説明は終了しており、看護学生が初めて1人で入室してきたところである。入院までの経緯、現在の状況について情報収集しましょう。

コミュニケーションリテラシー授業計画

回数	内容	方法
1	医療・看護における効果的なコミュニケーション	講義
2	良好なコミュニケーションに必要な技法	講義
3	【Sim演習（映像配信）】バランス思考（認知行動療法）を活かしたコミュニケーション演習	Sim
4	演習の振り返り/効果的な質問と伝達	講義
5・6	【Sim演習（タスク）】初めて出会う患者とのコミュニケーション演習	Sim
7	看護コミュニケーションの実際 実習でのコミュニケーションを振り返る	講義
8	【OSCE】コミュニケーション技術試験	OSCE

シミュレーションとOSCEの連動

科目：コミュニケーションリテラシー

ミッションタウンで患者さんの状況把握



【講義】コミュニケーションの基本

【シミュレーション】初めての患者対応場面

基礎看護学実習（コミュニケーション実習）

実習で体験したコミュニケーションの振り返り

コミュニケーションOSCE



反復学習から自信につなげる授業設計

タスク型Sim



①看護師役

②タイムキーパー

③撮影者

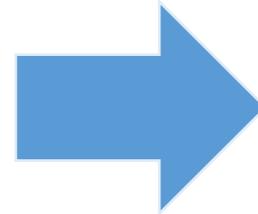
④観察者

患者役からフィードバック



学生同士で学び合う

同じ課題を繰り返し実践



OSCE



個人で挑戦する

自己を知り、自信をつける



コミュニケーションのシミュレーション演習で学んだこと

N=97

カテゴリー	サブカテゴリー
緊張感 のある場面からの学び	緊張感のある場
	模擬患者からの学び
グループ学習 による客観的な気づき	グループ討議による視点の広がり
	メンバーからのフィードバックによる気づき
患者との会話の イメージ化	患者とのコミュニケーション場面のイメージ化
	患者との接し方や会話の進め方の理解
実習 でのコミュニケーション場面に活かせる	演習事例が実習で活かせる
	実習の心構えと 自信の獲得
	実習でのコミュニケーション 技法の活用
自己 のコミュニケーションの気づき	自己のコミュニケーションの 傾向の理解
	動画による 自己のコミュニケーションの 振り返り

OSCE終了後の自由記述

<自己の成長を感じる>

- **前回より**自然な流れで落ち着いて実施できた
- 前回より気持ちを引き出すことができた

<フィードバックを受け、態度・行動面の特徴に気づく>

- 自分が思っている以上に声が出ていなかったと**フィードバック**を受け、患者さんの反応を見ながら声の大きさを合わせることも必要と感じた
- メモばかり見てアイコンタクトをおろそかにしていた
- 優しい雰囲気**で良かったと評価**を受けたので続けていきたい

<成果を得るための課題を感じる>

- 患者が発した言葉から、話を広げることが**自分の課題**を気づいた
- 患者が不安な言葉や感情を表した時のあと一歩踏み込むことができなかった

自己成長を感じる・自己課題を客観視できる

福岡女学院看護大学におけるOSCE導入のねらい

- ペーパーテストによる知識重視の教育評価ではなく、**判断力・技術力・マナー**など実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を評価する
- シミュレーションや実習での学びを**自分事として捉える**機会とすることで知識・技術を身につける
- アセスメントに基づく観察や看護実践を一連のプロセスとして限られた時間で実施し、模擬患者と教員から**フィードバック**を受ける
- 学生はフィードバックを受けることで、自身の課題に気づき、次に進む**自信や手ごたえ**につなげる

福岡女学院看護大学でのOSCEの実際

時期	内容	タイミング
2年前期	コミュニケーションOSCE	初めての実習前・後
2年後期	患者観察OSCE（任意）	看護過程実習前
3年前期	精神看護OSCE	領域実習前
3年後期	症状観察OSCE（任意）	全ての領域実習後

任意のOSCEの様子

【2年生バイタルサイン測定OSCE】



【3年生症状観察OSCE】



OSCE導入の利点と課題

<利点>

- 知識だけではない実践場面での判断力・実践力・態度の評価ができる
- OSCEまでに繰り返しトレーニングをするため、看護実践が身につく（自分事として取り組む）

<課題>

- 開催の時期
- 課題・評価表の作成
- 評価者・模擬患者の育成・確保
- 時間・場所（設備）の確保



DXとミッションタウン

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは

デジタル技術により、人々の生活をより良いものへと変革すること。既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの

教育DXとは

教育において最新のデジタルテクノロジーを活用することで、教育の手法や手段、教職員の業務などを変革させることを

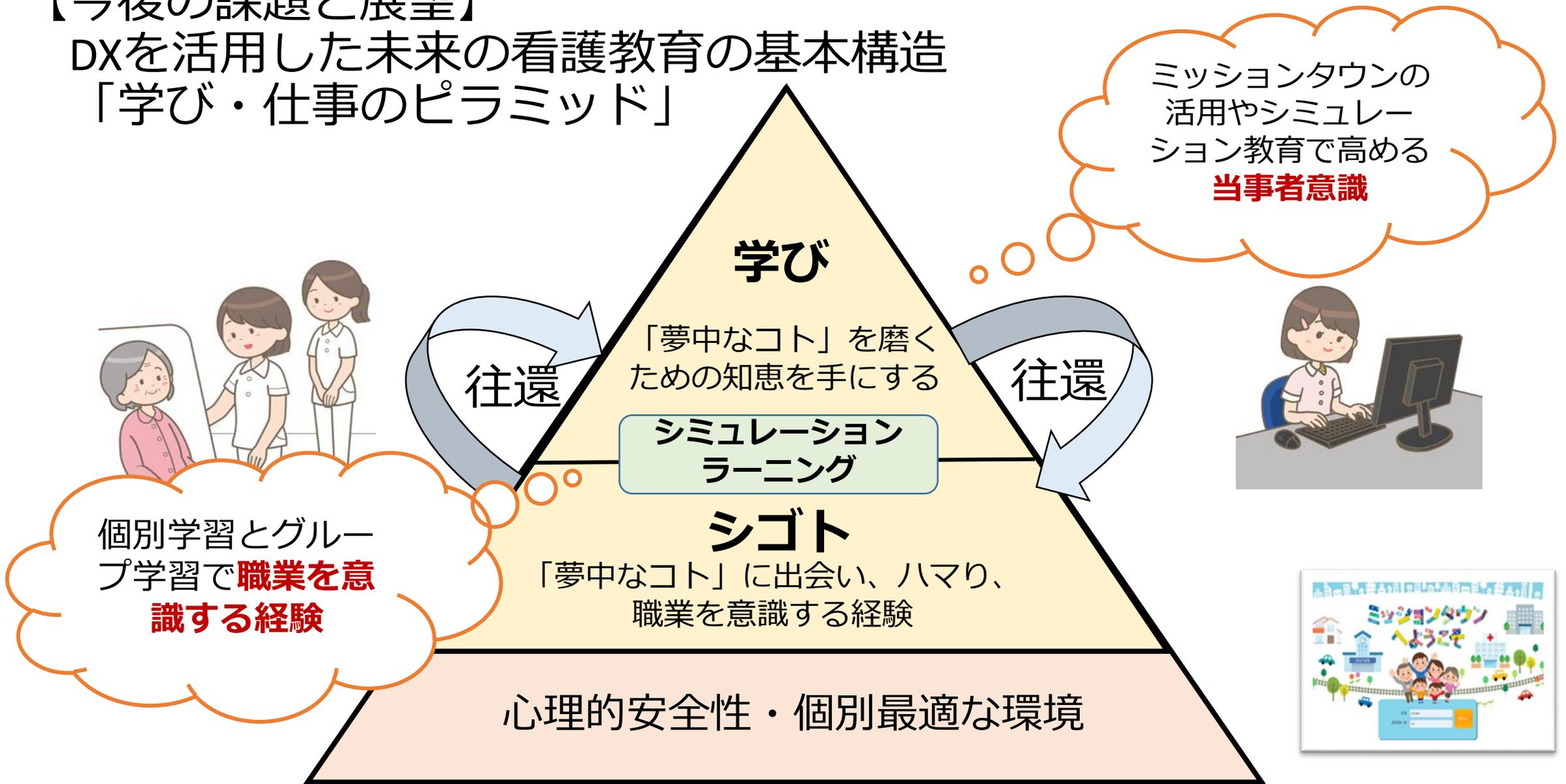
ミッションタウンとは

学年を超え領域横断的に活用できる健康レベルの異なる複数の事例をWeb上の町に共存させたデジタル教材



【今後の課題と展望】

DXを活用した未来の看護教育の基本構造 「学び・仕事のピラミッド」



個別学習とグループ学習で**職業を意識する経験**

往還

「夢中なコト」を磨くための知恵を手にする

シミュレーション
ラーニング

シゴト

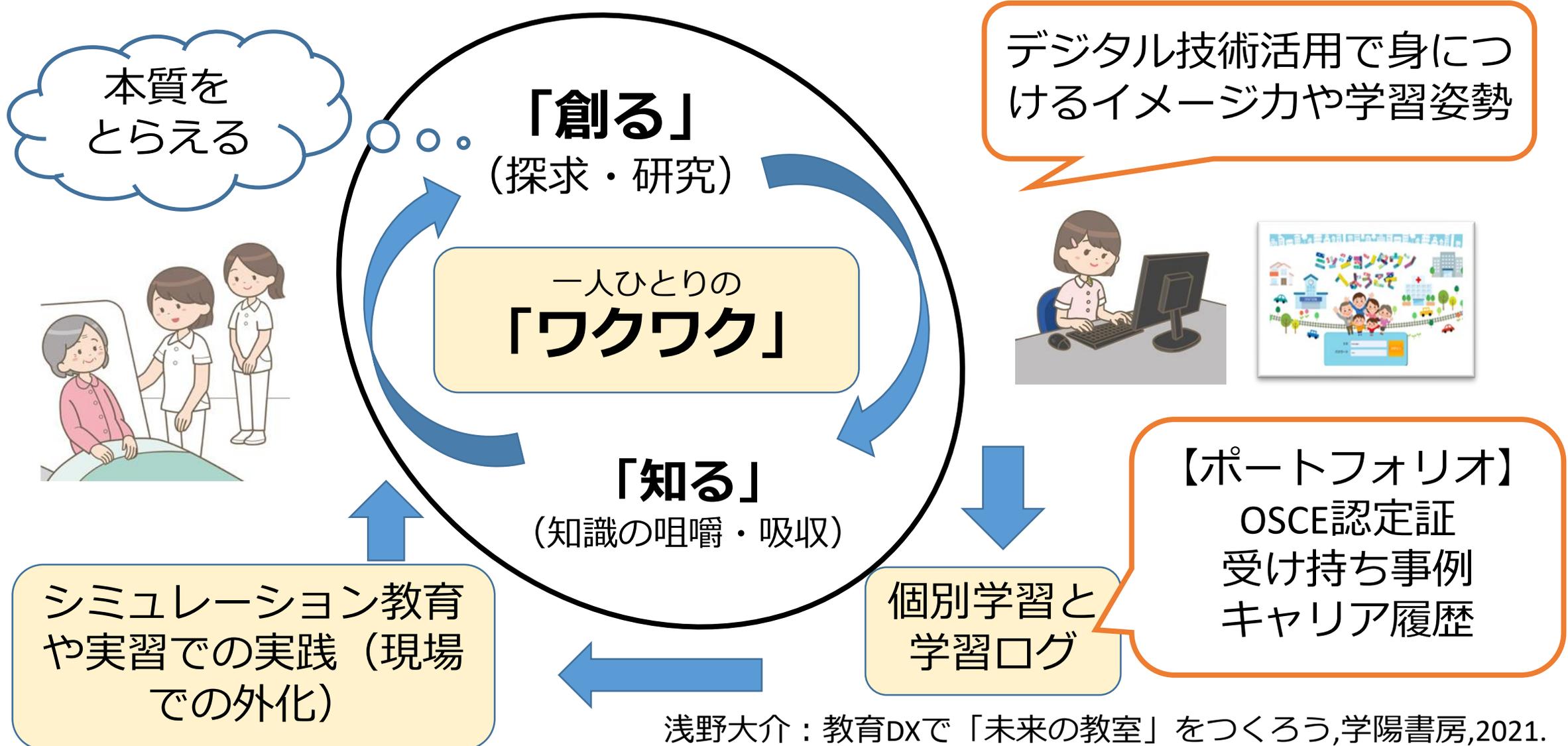
「夢中なコト」に出会い、ハマり、
職業を意識する経験

心理的安全性・個別最適な環境

往還

ミッションタウンの活用やシミュレーション教育で高める
当事者意識

目指すもの：一人ひとりの「ワクワク」をそれぞれの「創る」と「知る」を循環させる学びへつなげる

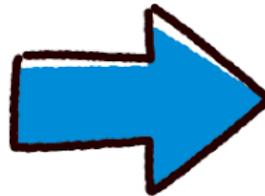


DXがもたらす未来の看護教育の展望と課題

こんな教育したい♡

- ・ デジタルは導入するだけでは続かない
- ・ 活用する発想力・活用する教育力が必要
- ・ 課題は多いが、夢もいっぱい、デジタル技術はその夢を叶える力になる

メタバース?



**発想力
協力体制**

**デジタルの力
他分野・企業との協力**

**活用する力
(教育力)**